

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「進行にそって、はんで話し合おう」 教材名「おすすめの一冊を決めよう」

2 単元の目標

比較や分類の仕方を理解し使う（(2)イ）。目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる（A(1)オ）。言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方を理解し使っている。（(2)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）	①積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもって、班で話し合っておすすめの一冊を決めることに取り組もうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、班で話し合って、目的に合うおすすめの一冊を決める単元である。学習指導要領第3学年及び第4学年のA(1)オを中心に置く。目的や進め方を確かめ、司会などの役を受け持って話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる力を育てる指導事項である。言語活動はA(2)ウ「互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動」に当たる。一人一人がすすめたい本を持ち寄るので、意見ははじめから分かれる。分かれた意見から一冊に決めるには、だれに何のためにすすめるかという目的に照らして、本と本を比べることになる。そのため、(2)イの「比較や分類の仕方」を話し合いの中で使う場面になる。本を選ぶ時に学校図書館を使うので、幅広く読書に親しむこと（(3)オ）とも結び付く。第2学年の、相手の発言を受けて話す学習（〔第1学年及び第2学年〕A(1)オ）を受け、第4学年の、学級全体で役割を意識して話し合う学習へ進む。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、司会の進め方を「進行表」にして班に配り、目的の確認から決まったこと確かめまでを、司会が見ながら進められるようにする。司会は班の中で交代し、全員が一度は司会の言葉を使う。次に、本を比べる観点を目的から学級で決め、表の形で書き留めさせる(2)イ)。好き嫌いではなく、観点に沿って同じ所と違う所を言えるようにするためである。そして、すぐに多数決にせず、共通点と相違点を言葉にしてから決める順を守る。話し合いの観察と比べる表、話し合いメモを見て、目的に照らして本どうしの同じ所・違う所を言い、班の考えをまとめる発言やメモがある姿を「おおむね満足できる」状況、違う意見のよい所を取り入れて決めた理由を説明したり、話がそれた時に目的に戻すよう提案したりする姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○単元の目的（だれに、何のために一冊をすすめるか）を確かめ、班で話し合っておすすめの一冊を決める学習の見通しをもつ。 ○これまでの話し合いで困ったことを出し合う。	態①（観察・ノート）
	2	○教科書の話し合いの例を聞き、司会が何を言って話し合いを進めているかを見付ける。 ○話し合いの進め方（目的の確認→考えを出す→質問する→比べる→まとめる→確かめる）を「進行表」にまとめる。	
第2次	3	○学校図書館で、すすめたい本を一人一冊選び、すすめる理由を「おすすめカード」に書く。	
	4	○目的に合わせて本を比べる観点（読む人に合うか・内容・長さ・絵 など）を学級で決め、比べる表の書き方を確かめる。 ○練習の話題で、表に共通点と相違点を書き分ける。	知①（比べる表・ノート）
	5	○班で一回目の話し合いをする。司会の進行で、すすめたい本と理由を出し合い、質問し合う。 ○話し合いの記録を聞き返し、進め方でよかった所と困った所を確かめる。	知①（比べる表）
	6 （本時）	○班で二回目の話し合いをする。比べる表を使って共通点と相違点を確認、目的に合う一冊にまとめる。	思①（観察・比べる表・話し合いメモ）
第3次	7	○班ごとに、決めた一冊と決めた理由を発表する。 ○ほかの班の話し合いの進め方のよい所を見付ける。	思①（発表・記録）
	8	○司会を交代し、短い話題で話し合っ、身に付けた進め方を使う。 ○単元を振り返り、話し合いの進め方で大事なことをまとめる。	態①（振り返り）

6 本時の指導 (6/8)

(1) 本時の目標

おすすめの一冊を決める話し合いで、目的と進め方を確かめ、互いの意見の共通点や相違点に着目して、班の考えを一つにまとめられる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時の話し合いで困ったことを振り返る。 ○「一回目の話し合いで、なかなか決まらなかったのはどうしてでしたか」 【めあて】 同じところとちがうところをくらべて、目的に合う一さつを決めよう。 2 話し合いの目的と進め方を、進行表で確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ みんな自分の本がいいと言って、決まらなかった。 ・ 理由がばらばらで、比べられなかった。 ・ 最後は多数決になってしまった。	・ 前時の記録（録音や先生のメモ）から、決まらなかった場面を一つ取り上げて示す。 ・ だれに、何のためにすすめるかという目的を、黒板の一番上に書いておく。 ・ 司会の子には、進行表の言葉を前もって確かめさせておく。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 班で話し合う。 (1) 司会が、目的と進め方を確かめる。 (2) 一人ずつ、すすめたい本と理由を言い、聞く人は質問する。 ○「その本は、目的に合っていますか。どの理由からそう言えますか」 (3) 比べる表に書き込みながら、本と本の同じところとちがうところを確かめる。 ○「どの本にも共通しているのは、どんなところですか。ちがうのは、どんなところですか」 (4) 目的に照らして、一冊にまとめる。 ○「目的に一番合っているのはどれですか。ちがう意見のよいところは、どう生かせますか」 4 まとまった班の話し合いの進め方を、全体で聞き合う。 ○「この班は、どうやって一冊に決めましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・どの本も、絵が多くて読みやすい所は同じだ。 ・～は短くて、読む人が最後まで読めそう。 ・～は話がおもしろいけれど、長いところがちがう。 ・目的は「～」だから、～の方が合っていると思う。 ・～さんの本の、楽しく読めるという理由は、決めた本にも当てはまる。 ・同じところとちがうところを比べてから決めた。 ・目的に戻って考えたら、決まった。	・考えを出す前に、司会が目的を読み上げることを進行表に入れておく。 ・比べる表は、横に本の名前、縦に比べる観点を書く形にし、班に一枚配る。 ・自分の本を推すことだけを言う子には、「ほかの本と比べると、どこが同じで、どこがちがうか」と問い返す。 ・司会が困っている班には、先生が進行表の次の言葉を指さして示す。 ・話すのが苦手な子には、おすすめカードを読み上げてから話してよいことにする。 ・多数決は、共通点と相違点を確かめた後でも決まらない時だけにする。 ・先生は班を回り、共通点・相違点を言葉にした発言を記録する。 ◎思① 互いの意見の共通点や相違点に着目して、目的に合う一冊に考えをまとめている。（観察・比べる表・話し合いメモ）
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「一冊に決めるために役に立ったのは、どんな話し方でしたか」 【まとめ】目的をたしかめて、本の同じところとちがうところを比べると、みんながなっとくして一さつに決められる。 6 次時は、決めた一冊と理由を発表することを知る。 〈予想される児童の反応〉 ・「同じところは」「ちがうところは」と比べたら決めやすかった。 ・司会が目的を言ってくれたので、話がそれなかった。	・振り返りは「話し合いで使った言葉」「司会や友達の進め方でよかったこと」の二つで書かせる。 ・決まらなかった班は、何が決まっていって何が決まっていないかを確かめ、次時の始めに話し合いの残りをする時間を取る。

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

上段左に日付・単元名・めあて。上段中央に話し合いの目的（だれに、何のためにすすめるか）。上段右に進行表（目的の確認→考えを出す→質問する→比べる→まとめる→確かめる）。中段に比べる表の拡大版（横に本、縦に観点）を貼り、全体で聞き合った班の表を写す。共通点は同じ色、相違点は別の色で囲む。下段左に司会の言葉と参加する人の言葉（「～さんと同じで」「～ところがちがって」「目的に合うのは」）。下段右にまとめと振り返りの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

